

伝統産業の変容

——OTA KNIT の試みと現代ファッションの可能性

日本には古くから伝わる伝統的産業が多数存在しており、時代と共に継承されてきた。しかしそんな伝統的産業だが、現在、後継者不足や従事者の高齢化、日本人の生活スタイルなどの変容により衰退の一途を辿っている。そこで本研究では数ある伝統的産業のなかでも特に群馬県の繊維産業、中でも群馬県太田市のニット産業に焦点を当て、産業を盛り上げようと立ち上げたアパレルブランド **Mebuki** のデザイナーへのインタビュー調査を元に、伝統的産業をこれから後世に残していくためにはどのような取り組みが求められるのかについて明らかにする。まず第 1 章では現在の伝統的産業業界の現状をデータを元に過去と比較し、浮き彫りになった課題に対して戦後の日本が辿ってきた歴史と共に、雇用環境や家族制度の変化など、多角的な視点から考察している。続く第 2 章では、日本全体の現状から、群馬県、そして群馬県の中での太田市のニット産業に焦点を当てた。太田市のニット産業の歴史は古く、一時期は東京近郊という地の利を活かして国内シェア 90%以上を誇るも、バブル経済の崩壊や、大量消費・大量生産の社会への移行などにより大きく衰退してしまった。そして第 3 章では、実際に太田市のニット産業から生まれ、伝統と現代的なファッションを組み合わせたアパレルブランド **Mebuki** のデザイナーにインタビュー調査を実施し、**Mebuki** の取り組みから今後の伝統産業の在り方について検討した。デザイナーはインタビューの中で **Mebuki** というアパレルブランドを通して太田市のニット産業を多くの人に広めていくことが重要であり、まずは自分達の取り組みについて知ってもらうことが先決であると述べた。また現代的なファッションと伝統を結びつけることにより、人々に伝統をより近くに、親しみやすい形で提供することが今後のニット産業に可能性をもたらすと語った。そしてこの太田市のニット産業における **Mebuki** の活動は日本全国に存在する他の伝統産業に可能性をもたらすであろうという結論に至った。